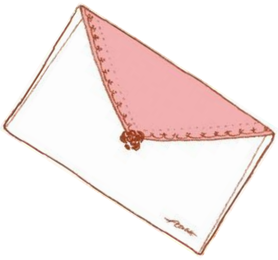
令和４年８月 10 日



「子どもと保護者でいっしょに学ぶ　読書感想文講座」

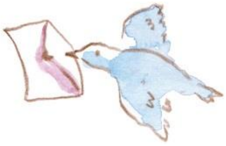
第 1 部子どもと保護者一緒のプログラム・第 2 部子どもと保護者別プログラムの様子

【第 1 部　親子一緒のプログラム】

★最初の 1 時間は、本を選んで読んでもらう時間です。親子で図書館で準備してくれていた本を手に取ったり、読書感想文を書く本の選び方について図書館司書に相談をしたりしたあと、それぞれの親子は、自分で持ってきた本や、図書館で選んだ本を読んでいました。

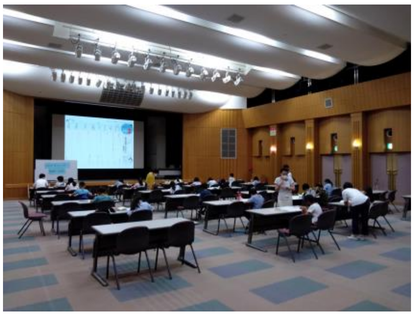
★家で本を読んでくる親子は第 2 部からの参加も可能としていましたが、ほとんどの親子が最初から参加し、ともに本を選び、読書を楽しむ時間となっていました。

★1 時間が過ぎたところで、子どもプログラムと大人プログラムに分かれるために、保護者、子どもたちそれぞれのプログラムを受ける教室への移動。



【第 2 部　子どもプログラム】

講師：松田　美紀さん（話す作文教室　はなさく代表・NPO 法人マナビエル理事）
松田　裕司さん（NPO 法人マナビエル）



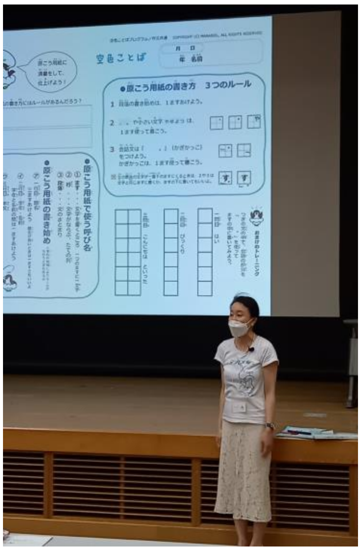
★松田美紀さんと松田裕司さんが〈空色ことば教室〉のオリジナルワークシートを使いながら「読書感想文」の書き方を通じて子どもたちに人にどのように自分の思っていることを伝えるのかということについて教えてもらいました。

★どこの場面でどう感じたのか、どう伝えたいのか、質問を細かく重ねて、自分の気持ちに気づき、絵で表すことも含め、表現できるように励まします。

★感想文を書くということは、何か正解を出すということではなく、自分らしさを知り、経験や価値観をもとに自分の等身大の考え、気持ちを表現することだということを実際に体験してもらいました。

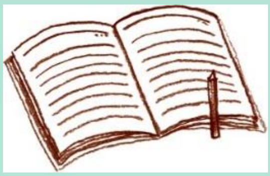
★夏休みのこの1時間半で子どもたちは伝える喜びと楽しさを経験できました。

★はじめはやや緊張していた子どもたちも「自分が思ったことは何を書いてもOK」という講師の言葉に励まされ、楽しんで、読書感想文を書いていました。



♡アンケートより♡

・思ったよりすらすら書けた。
・少しコツがつかめた気がした。
・楽しいなという気持ちになりました。
・読書感想文ってこんなにすらすら書けるんだと思ってびっくりした。
・むずかしそうと思ったけどすぐできてよかったです。
・いがいと楽しかった
・スイスイ書けてスッキリした。
・少しめんどくさいけど楽しい



令和４年８月 10 日実施

「子どもと保護者でいっしょに学ぶ読書感想文講座」

保護者プログラムの様子

講師：福地　朋子さん（wmoon 合同会社代表・NPO 法人マナビエル理事）
　　　志田　千帆さん（NPO 法人マナビエル代表理事）

★読書感想文の書き方を通して子どもたちの発信する力、子育てに生かしていただくということを目的にしています。

★「読書感想文」は昔と比べて夏休みの宿題としてはあまり必須ではなくなってきています。感想文を書かなければならないということがネックできらいになってしまうようなこともあるのでそれは避けたいですね。

★子どもたちの作文に関して、成功体験が少ない、達成感をおぼえたことがない、ということも読書感想文を苦手と思ってしまう要因として大きいです。

★一番身近な家族の反応、つまり第一声、というのはとても重要で、「なにこれ？」「これはちがうのではない？」「こう書けばいいのでは？」というような声をかけてしまうと子どもたちの書く意欲をそがれてしまいます。

★読書感想文で求められるような「発信力」は今の時代とても必要とされ、面接や受験などであなたはどう考えるのか、個の意見を求められる場面は今、増えています。

★従来は「受信型」の教育で、正解をおぼえていくことが求められていましたが、今は「発信型」の力が求められます。そのためにも読書感想文を書く、文章で表現する力を磨くことはとても役に立ちます。

★読書感想文は「うまく書く」必要はありません。今日よりは明日、明日よりはその先、自分の考えをどんどん深めて、多様な表現の仕方がわかってくる、というのが文章表現ではないでしょうか。学習指導要領の中でも「読書感想文」についてはとくに何もいっておらず「本に親しむ」ことが大事とされています。

★子どもたちにこの本の中で、どの場面にいちばん心が動いたのか、をきき、それを入り口に誰にその気持ちを伝えたいのか、という方法で質問を重ねると、子どもたちはどんどん書きやすくなり、自分の意見も深まっていきます。対話のキャッチボールをすることが求められます。

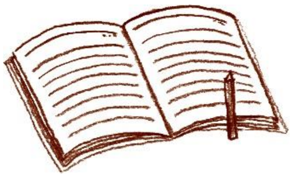
★質問を重ねる対話がポイントで､｢それはどういうこと？教えて｣と｢教えてほしい｣と問いかけ、それに子どもたちが答えるということが子どもたちの発信の原動力となります。

★このとき、本当に子どもに向き合ってきちんときいてあげましょう。そして子どもたちの答えの否定や修正をしてはいけません。質問の答えは子どもの考えから出たものであり、その子だけが知っているのです。認めること、子どもの自由な発想を楽しむことが保護者や、大人には求められます。

★いちばんみなさんにお伝えしたいメッセージは、子どもを一人の人としてとらえましょう、ということです。子どもに敬意を持ちましょう。何を言っても受け止めてもらえるという安心感の中で子どもたちは思考をめぐらし、成長していけます。そして保護者が人の話を聞く姿勢から、子どもたちも話を聞く姿勢を自然と身につけるのです。

【最後に】

★子どもたちも、今日かなりがんばってワークシートを書いたと思います。まずは読んでみて、自分の気持ちが表現できていることをほめてあげてくださいね。第一声はとても大事です。



♡アンケートより♡

- 質問というより詰問のような感じで感想文を手伝っていたのでサポートする姿勢を変えていきたいと思います。
- 子どもにいくつも質問をしてコミュニケーションを増やしていきたいと思いました。
- 子どもとの向き合い方についてのヒントをいただけてよかったです。子どもの良さについて本人にも伝えたいと思います。
- 頭でわかっていてもついつい忙しさに後回しになってしまう。子どもとの会話のコミュニケーションを改めて意識したいと思います。